会議開催記録

会議名	第1回 菊川市総合計画審議会
日時	平成27年2月24日(火) 19:00～21:00
場所	菊川市庁議室
出席者	審議会委員15名、市長、企画財政部長、事務局3名
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 菊川市総合計画審議会委員紹介及び委嘱の交付 3 市長あいさつ 4 菊川市総合計画審議会会長及び副会長の選出 5 会長及び副会長あいさつ 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第2次菊川市総合計画策定方針(案)について (2) 第2次菊川市総合計画策定に伴う各種意識調査の実施報告について (3) まち・ひと・しごと創生について 7 その他 8 閉会
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 15名委員全員出席により会議成立の確認 ・ 配布資料1～4の確認 ・ 計画策定支援コンサルタント、ランドブレイン株式会社の紹介 2 菊川市総合計画審議会委員紹介及び委嘱の交付 <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会員の紹介(名簿順、略歴読上) 3 市長あいさつ <p>太田市長： 第1回目にあたり、全委員の出席を感謝する。これから宜しく願います。今回お集まりの皆さんは個々に存じあげている方々ばかりで、最強のメンバーが集まったと思っている。必ずやすばらしい総合計画の答申を頂けるものと、再確認する。</p> <p>平成17年の合併から今年で10周年を迎え、この1月17日は記念式典を催した。合併から2年後の平成19年に現在の総合計画が策定され、今回、平成29年からとなる新たな総合計画策定について皆さんにご協議いただくことになる。10年前に定めた将来像は、みどり次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～とされ、こういった基本構想のもとに順調にまちづくりが進められて来たが、第2次総合計画においては、人口、社会、財政、経済事情など10年前に比べ、大きく様変わりしており、それに対応できるような総合計画にしていかなければならないと考えている。どうか、菊川市民が「住んで良かった」、「住みたくなるまち」になるように皆様方のご指導を頂ければ大変有り難い。</p> <p>特にこの総合計画は、10年前は国の上位法の中でつくらなければならなかったものが、今回は、法律が変わってつくらなくても良くなったのだが、菊川市としての方向を示すため、議会で総合計画策定条例の承認を得て、今後も市の最上位計画として位置づ</p>

けていくことになる。

また時を同じくして、「まち、ひと、しごと創生法」も、国、中央政府の肝いりで動きがある。地方人口ビジョン、地方版総合戦略といったものを、向こう5年間を見据えてつくることになっている。この総合計画と同時進行となるため、相互に考えながら菊川市の今後の行く末を見据えていきたい。今日をスタートに菊川市総合計画審議会の皆様の力を頂き、2次総合計画が策定できますことを心よりお願い申し上げます。職員共々一緒になって良いものをつくっていききたいと考えている。今後とも宜しく願います。

- ・事務局紹介（担当部局、企画政策課：赤堀部長、橋爪課長、鈴木主幹兼係長、大石主任主査）

4 菊川市総合計画審議会会長及び副会長の選出

- ・事務局一任の声
- ・事務局案（会長：西野勝明委員、副会長：齋藤久司委員）
- ・会場拍手をもって会長、副会長を選任

5 会長及び副会長あいさつ

会長： これまでも自治体での種々の委員をやらせて頂いている。ある意味でやりがいのある、このような重職を担うことになったと考えている。先ほど市長あいさつにもあったように、丁度、地方が大きな転換期、環境変化に見舞われて、自らがフロンティアを拓かなくてはならない、そんな時期に来ているのかと思う。地方から知恵を出さなくてはならない、という時期が来ている。皆様方の知恵を是非お借りしながら、よい計画をつくっていききたい。どうぞ、ご協力・ご支援をよろしく願います。

副会長： 生まれも育ちも菊川市であるが、社会人となってからは菊川市で仕事をしたのは3年ほどで、県内外9市を渡り歩く転勤族であった。当事の住民の皆さんが非常に好意的だったことを記憶している。いずれ仕事を終えたら地元へ帰るのだから、何か恩返しを考えていたところへ、この審議会への参加となったものである。この総合計画は菊川市の今後の10年間の方向を決める非常に重要な会議になろうかと思う。これから、この計画が市民に評価されるような内容になるよう、是非とも頑張っていきたい。西野会長を盛り上げて、皆さんで素晴らしい審議会になるようにしていきたい。宜しく願います。

事務局： これより議事に入るため、会長に進行をお願いする。

6 議事

- (1) 第2次菊川市総合計画策定方針（案）について
(資料2、事務局説明)

(質疑)

委員： 重点事業と基本事業という区分があったが、普通に考えれば基本事業の中のより重要な事業が重点事業と位置づけるつもりだと思うが、この場合は重複しないという説明だったようだが、そのあたりもう一度お願いしたい。

事務局： 今までの総合計画は3層構造が主流だったが、全国の様々な総合計画の事例を見たなか、市長マニフェストと総合計画という2つの施策体系があって、それを如何に一緒にしていくかということ念頭に置いていったところである。市長マニフェストと市として取り組むべき重点的な事業というのも今後出てくるのが想定される。それらを市長の任期である4年間という枠組みで常に見ていくもの、まず基本事業というのは、扶助費といった今後も継続していく必要があるものを想定し、4年間と3年間のものに位置づけ、3年間のものは毎年ローリングし、4年間のものは、4年後の達成状況を見ていくものとする。このようなイメージで重点事業と基本事業を区分している。2つともどちらかに位置づけられていく事業となり、総合計画で取り組むべき重点的なものが出てくれば、重点事業としてとらえて、進めていきたいと考えている。

副会長： 重点事業は市長任期にあわせて、市長の思いを入れたような内容が主なもので、基本事業は毎年のルーティーンというように考えればいいのか。重なるものは無いということか。

事務局： そのとおり。

会長： 2年間で基本構想をつくるというのは、じっくりと長時間かけることになるが、議事(3)地方創生の関係もあつてのことか。

事務局： 現在の総合計画は合併時に策定した新市基本計画がベースになっていたが、今回は、短期間に色々考えるのは難しいと判断した。地方創生に関する事業も出てきたことにより、更なる議論が必要と認識している。

委員： 地方版総合戦略では今年度(秋頃)には、財政的裏付けを伴う事業まで出す必要があるため、実行計画などは早めに手を付ける必要があるだろう。

事務局： 地方版総合戦略については5年期間の計画を平成27年度中につくることで、平成28年度の当初予算に間に合うには秋までに策定する想定である。総合計画基本構想の改定もこの予定よりかなり早まるものと考えられる。早々に人口フレームの検討を着手する。

委員： 基本的に考えることは、行政の経営計画ということだと思うが、現状把握は大事なので、特にどのような人口減少があつて、どう財政的に厳しいのか、委員相互の共有が大

切ではないか。また総合計画（第一次）の評価も重要だと思われる。この計画も実際運用されるのか、気になるところである。

事務局： 総合計画の評価指標として、「みんなで目指す目標値」の設定とアンケート回答により把握されている。評価実施により、予算編成にも反映される。いわゆるPDCAサイクルにより運用している。説明資料については今後検討させて頂きたい。

今回、学生向けにアンケートを実施しており、その結果なども今後報告していきたい。第1次計画の評価により第2次計画を策定する手順になっている。適宜資料提供に努めたい。

事務局： 今後、会議でご意見を頂くためにも市の現状把握等を認識頂くのは必要だと考えている。ご議論頂けるようなデータ提供を図りたい。

会長： 今後、市の現状データや、現計画の達成度なども出されるものとする。

委員： 市の将来イメージの設定や、その実現のための指針などに関する行政内部の共通認識などはあるのか。今後、市民参加も求めていくなかで、様々なご意見もあるだろうが、それらを、どう評価し、計画事項に反映されていくのか気になるところである。

事務局： 計画に示すビジョン等はこれからつくっていく段階である。この策定段階から、市民の方々にもご意見を頂きながら作業を進めていく事となる。当然、細かな意見も出てくるが、総合計画には、大きな方向性を示すので、ご意見全ての内容を反映することはできないところもある。将来像とその実現に向けたご意見を反映していきたい。

会長： 計画事項との関係もあるが、いろいろ要望については、随時出していけるということで宜しいか。

事務局： お願いする。

会長： では、策定方針については案の通りで宜しいか。

(了承)

事務局： 今後の開催時間については、基本的に昼間の開催としていきたい。

(2) 第2次菊川市総合計画 策定に伴う各種意識調査の実施報告について
(資料3、事務局説明)

委員： このアンケート実施に要した費用について確認したい。

事務局： 郵送料、督促礼状等にかかる実費として約30万円程度となっている。

事務局： 今回特に大学生も対象にしており、「菊川市に帰って来るのか」といった意向も設問にしている。

会長： アンケートの対象者ごとに調査票が異なっているのか。

事務局： それぞれの対象毎に設問を変えているが、共通的な事項も入っている。基本的には、各対象ごとに分析を整理していきたい。

会長： 企業意識調査に商店は入っているか。

事務局： 主に市内の工業団地に立地している事業所が対象となっている。全ての企業を抽出していない。

会長： 今回初回ということで、本議題は経過報告という趣旨になろうかと思う。今後随時調査結果報告についてお願いする。

(3) まち・ひと・しごと創生について

(資料4、事務局説明)

(質疑)

委員： 基本的に、国に口を開けて待っていても駄目だというのが創生本部の考え方で、これまでのように国が全国画一的に施策を打っても効果が出なくなると認識されている。地方で考えたアイデアを国が支援するというのが基本スタンスであり、菊川市としてどういう方向に向かうのか考える必要がある。

会長： 補足ありがとうございます。

委員： これまで出てきた会議で一番テーマがつかみにくい(難しい)のだが、人口減少問題や、農・商・工業の連携といった個々のテーマなら、もっとアイデアが出てくると思う。個々にもう少し分かりやすいテーマになると意見も出易い。

アンケート調査についてであるが、現在、市内の商業の衰退が著しいと見ているが、今回その辺りの調査が全く無い。商工会だけの問題とか、別問題かということ、必ずしもそうではないと思う。町として商業をどうとらえていくかも大事なのではないか。

事務局： 本日は抽象論になってしまうが、本年秋までに計画案が見えるようにすることと、今後、具体的な施策についてもこちらから提案していくことになるが、5年間である程度

の成果をあげていけるものが必要で、1年毎に業績評価を行うもの、例えば交流人口何人目標としたら、どういう結果が出かということ、PDCAを運用しながら進めることが求められる。総合計画ではある程度幅を持たせられるが、地方戦略に関しては、かなり焦点を絞った施策でつくらざるを得ない。以後、議論を宜しくお願いしたい。

事務局： 商業事業者対象のアンケートについては、今後、対象の抽出等、商工会にもご相談のうえ実施を検討したい。アンケート実施が期間的に厳しければ、ワークショップ会議のほうで商業者の方の参加を求めるなど別の方法も考えたい。

会長： 具体的な内容としてひとつ手掛かりになるのは、この項目ということになるのか。静岡県のほうは如何か。

委員： 静岡県では、現在本部会議を立ち上げたところで、来月中旬には県民会議を開催、その中で、国が示した総合戦略に対する、静岡県としての総合戦略素案（基本目標）、KPIなどを示し、各界の代表者にご意見を頂き、県版の総合戦略を調整する予定としている。

他方、市町は独自に動かれているが、広域的（圏域）取り組みも必要と認識し、地方会議というものを4月に開催する予定である。この会議を来年度2回ほど開催し、秋には圏域版総合戦略、地方版の戦略としていきたい。

事務局： 今回、地方版をつくるにあたり、国で求められているのが、産・官・学・金・労・言という方々からの意見を求めるもので、当初は総合計画とは別組織を考えたが、2重の組織で検討するのも良くないだろうという判断で、総合戦略についてもこの審議会でご意見を頂くものである。審議会メンバーには、金融機関、労働組合、報道機関について委員が居ないので、ワークショップ等でご意見を伺う場を持ちたいと考えている。

委員： 現状の地方自治体で、人口が増加している自治体は、何故増加しているのか、資料があるなら確認してみたい。

事務局： 首都圏以外で人口が増加している都市を確認してみたが、都市の近郊で住宅地を開発できている所が多くあるようだ。定住施策を打っているところもあるが、実際に人口増加に結びつけるのは難しいようである。特色ある取組と思うのは、島根県海士町でのIターン就職の斡旋などがある。

会長： 静岡県内では長泉町の子育て支援策であったり、袋井市の新駅近くの住宅地開発による増加が顕著のようである。藤枝市も増加しているが、島田市、焼津市など（津波被害を想定して）沿岸部からの移動が要因としてあるようだ。

副会長： この1年の社会人口のみで比較してみると、県内では藤枝市が1位、次に伊豆の国市、

長泉町、そして菊川市（四番目）となっている。

会長： 事務局も現状認識を頑張ってもらいたい。

事務局： 昨年の5月～8月の期間で市民課のほうで転入出者に対しアンケートを実施し、この3月にも実施するので、結果について有効であれば活用したい。事例についても調査していきたい。

会長： それでは質疑はおおよそ出たようであるが、まだご意見のない委員がいらしたら、発言をお願いしていきたい。

委員： 菊川市の現状についてもっと知る必要があると認識した。資料提供もお願いしていきたい。

委員： テーマとすると少し重い内容だという気持ちだが、近年の人口流出は実感しており、子を持つ父親として、子供が地元で生活し続けていける環境をつくることも重要だと思う。菊川市の良さを思い切り前に出していく事が大事ではないか。

委員： 人口減少は喫緊の課題であり全てに繋がっていくことであろう。老人福祉は今後も増加して行き、厚生労働省の発表では2025年には65歳以上の認知症者が700万人を越し、どんどん補助を厚くするのではなく、計画的な対応が必要とある。菊川市で見ても少子高齢化は進行するが、子どもが生まれていくには、対策として結婚相談といったことも大事な役割を持つ。手を入れられるなら、なんとかしなくてはならないという思いであるが、肩肘張らず審議会15人の総意で議論を進めていければと思う。

委員： 「選択する未来」というホームページをご覧頂くとよいが、今後、社会全体が結構な取捨選択をしないと計画策定ができないことに気付かされる。人口と経済は密接に結びついており、このまま若者が居なくなっていくと、社会も本当に成り立たない。選択すべき未来の内容を審議会の皆さんが共有できるかどうか、まずそこからスタートだと思っている。

会長： この審議会の中でも、地域の再生に必要な全ての対策を考えるうえで、実は国が規制していることのネックもあるのでないかと思う。国に対し、逆提案できるような内容の審議もやっていけたらと思う。

委員： 菊川の強みというものも何か出せないかと思うが、なかなか見えてこない。このあたりはこども・子育て支援会議のほうでも議論している。この審議会でも色々アイディアを出し合いながら、具体的施策を論じたい。

委員： 会社経営の立場からみても、会社には独身者が多いことに気付く。結婚していても今度は子育ての問題となる。解決すべき問題について、会社側から見えることも出しているしながら、審議会委員として頑張っていきたい。

委員： 以前、愛知県に住んでいたが、その時から菊川市に戻ろうと考えていた。現在子どもは3人居て、周りにも子どもが多い家庭が多く、「少子化」の実感は今はない。菊川市は暑すぎず寒すぎず、住みやすい町だと思っている。そういった所を皆さんにも分かって頂ければいいのではないかと思う。

委員： データについて確認できたら、市内9小学校区の児童数の6年間程度先の推移をお願いしたい。

中部地域で住みやすいまち1位になっていたことがあるが、そのあたりの分析があればお願いしたい。資料3の意識調査について、若い女性、中・高生、大学生の意識について興味深い。

就学前教育の投資が今後重要と考えているが、そのようなことが提言として盛り込めるなら考えて頂きたい。

委員： 先ほどの意見について、商店を対象にしたアンケート調査の「要望」ということでなく、まちに個人商店は要らないというならそれも施策なので、個人商店を保護してほしいと言っているのではない。

なお今後審議開催について基本、昼間ということがあったが、できたら夜の開催が希望である。

会長： 今後の開催時間はどうか。

事務局： 各委員のご希望を伺い、再度整理したい。

委員： 夜間としても、本日のように19時ではなく、17～18時台からでもいいのではないか。

事務局： ある雑誌の掲載で菊川市が住みやすいまちの1位に選定されていたが、この資料などもあたれば提供していきたい。

会長： それでは、ここで議事を終了し事務局にお返しする。

7 その他

事務局： 次回審議会について、3月下旬～4月上旬の開催を予定する。次回には意向調査結果報告、人口推計検討資料、第1次総合計画に関する評価などを提示していきたい。

8 閉会

副会長： 今回スタートということで全員の出席に感謝する。今後1年間、ほぼ月1回ペースの開催となるが、この議論によって市の重要な方向が決まる。それぞれの立場でご意見、参加をお願いします。

以上